

取組状況(1) 地下水適正管理協議会加盟各社の取組 [地下水適正管理協議会]

地下水適正管理協議会(GWMA)は、有益な地下水の持続可能な水資源としての恵みを楽しむため、地下水利用による障害を生じさせないような有効利用のあり方をより一層探究するとともに、地下水の処理技術並びに適正管理の普及進展を図ることを主目的として、2021年3月に設立しました。本号では、GWMA加盟の各企業が推進する取組について、ご紹介します。

1. 「森は海の恋人」水の循環研究会における調査、検討を実施(加盟A社)

- 駿河湾における森・里・川・海のつながりを再現するシミュレーションモデルであるスルガベイ・シミュレータを構築しました。

2. 二元給水を確保した水処理システム(加盟B社)

- 今治里山スタジアムで、レジリエンスシステムが活躍しています。災害への備えのために、雨水や地下水を有効活用し、グリーンインフラに貢献します。
- 水道水以外にも二原水を確保して、水を綺麗にして供給し、万が一、電気もガスも止まってしまったときでも、手押しポンプで地下水を汲み上げることができます。

3. 災害時用 飲料水/雑用水供給設備(加盟C社)

- 東京都では地下水保全の観点から法・条例によって地下水の揚水を10m³/日に規制しています。
- 室町東三井ビルディング(COREDO室町)様では、平時は給水システム内の循環に留め、災害等による断水時にビル内に92m³/日を供給する災害時地下水利用システムを設置。ビル就業者、避難者の水ライフラインを確保します。

4. 病院や宿泊施設等の人命救護に向けた取り組み(加盟D社)

- 武蔵野病院様では、熊本地震の際、市内全域が断水、飲料水を求める近隣住民のために、施設内に設置した地下水(井水)膜ろ過システムの災害時用蛇口を解放しました。
- 災害時協力井戸を持つニューオータニ様は、2009年に地下水膜ろ過飲料化システムを導入。1日あたり最大350tの飲料水を確保。万が一の災害時には、約9,700世帯が3日間過ごすことが出来る水量に相当します。ご宿泊のお客様に限らず、近隣住民の皆様の「安全・安心」にも貢献しています。



駿河湾の水の循環研究会における調査、検討



今治里山スタジアムレジリエンスシステム



災害時用 飲料水/雑用水供給設備
室町東三井ビルディング(COREDO室町)様



地下水(井水)膜ろ過システム災害時用蛇口の解放



災害時協力井戸保有
地下水膜ろ過飲料化システム

地下水適正管理協議会では、今後も地下水に関する技術や、その関連情報を広く周知、提供することにより、地下水を適正に管理する為の技術力向上に、貢献してまいります。

お問合せ先: 地下水適正管理協議会

TEL: 03-5644-7565 E-mail: gwtekisei@wrpc.jp

URL: <https://gwma.group>

取組状況(2) 非常時地下水利用システムを紹介しました [リバーフロント研究所]

リバーフロント研究所の研究発表会の中で、昨年度、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の中で開発された非常時地下水利用システムを紹介しました。このシステムは、災害時の地下水利用において、揚水量に対する地下水位および地盤沈下量を予測するもので、リバーフロント研究所のwebに誰でも登録すれば利用可能なインターフェイスを公開しています。

是非、本システムのご活用に向けてお問合せください。⇒ <https://www.rfc.or.jp/sip.html>

なお、当日の発表資料は、リバーフロント研究所のwebにも後日公開予定です。

- 日時 令和5年10月4日(水)13:00~17:40
- 参加者 約170人 [地方公共団体、国関係機関、研究機関、企業]
- 内容 非常時地下水利用システムの紹介(システムの仕組み、利用方法、等)
※対象地区 関東平野及び濃尾平野
- 主な意見 ・自治体の利用を想定した際、特定の市町村のみの入力条件でも利用できるのか。
(回答)市町村単位で条件を入力して利用可能。



発表会状況(月島社会教育会館)



非常時地下水利用システム発表

取組状況(3) 第3回地下水マネジメント研究会を開催しました [水循環政策本部事務局]

地下水に関する課題を共有し、先進的な取組を進めている地方公共団体の経験、ノウハウや他の参加者の知見等から解決の方向性を見いだす「地下水マネジメント研究会」を、「地下水の実態把握(地域の特性整理・現地観測による概況把握)」をテーマに開催しました。全国の地方公共団体の担当者を中心に約250人が参加し、既存資料を活用した具体的な地下水実態把握手法などの意見交換が行われました。

当日の研究会資料は、ポータルサイトでご覧いただけますので、参考にしてください。

今後も、地下水マネジメント推進プラットフォームの一環として、継続して開催します。

- 日時 令和5年9月29日(金)14:00~15:30
- 参加者 約250人 [地方公共団体、国関係機関、研究機関、企業、報道]
- 内容 地下水の実態把握(地域の特性整理・現地観測による概況把握)
- 主な意見 ・既存資料やデータを利用することで効率的に地下水の実態把握に向けた作業に着手できることが分かった。
・水循環シミュレーションモデルについて関心があったが、今回イメージすることが出来たため、取組を検討したい。
・基本的な知識を伝え、地域の取組を紹介することは、地下水利活用・保全に取り組む地域へのサポートになる。



配信状況(水循環政策本部事務局)

記録的な暑さもようやく和らいで来ましたが、今夏は気候変動の影響を強く実感しました。

気候変動の影響による渇水等に加え、近年では水需要の変化、新たなニーズの顕在化、さらに大規模災害・事故による水供給リスクの更なる顕在化等、水資源を巡る様々な情勢の変化が見られるようになってきており、地下水マネジメントの必要性が、より増している状況にあると言えます。

これからも地下水マネジメントに関する情報を発信して参りますので、参考にさせて頂ければ幸いです！

■ 内閣官房 水循環政策本部事務局 TEL:03-5253-8386 E-mail:hqt-mizujiyunkan@mlit.go.jp
(国土交通省水管理・国土保全局水資源部内)

■ 地下水マネジメント推進プラットフォームポータルサイト URL:<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/gmpp/index.html>